

第6回滋賀県自治創造会議＜概要＞

- 1 日 時 平成 22 年 10 月 12 日(火) 15 時～18 時 15 分
- 2 場 所 市町村職員研修センター 視聴覚教室
- 3 出席者 知事、市町長(代理出席...守山市：副市長、日野町：総務政策主監、豊郷町：総務主監、甲良町：総務課長、欠席...彦根市、近江八幡市、草津市、多賀町)

4 概 要

(1) 意見交換 テーマ：地域主権改革について

[市町発言概要]

自治創造会議について、これからどう動かすかが課題。事務的に積み重ねる場ではなく、政治の対話の場であるべき。

この会議を形式的なものにしないことが大事。補完性の原理について、県の役割を明確にし、単なる市町への押しつけにならないようにすべき。

一括交付金については三位一体のように財源調整の手段にされようとしている。また町村のような規模の小さな団体では少ない交付金を集中しても大きな事業はできない。補助金が必要。

市町村自身が地域に手を出し過ぎた面がある。地域主権は地域社会のおかれた状況を再点検し、再構築することを含めて議論する必要がある。

(2) 懇 談

「滋賀県自治創造会議について」

[市町発言概要]

懇談の座長は第三者（部外者）ではなく、このメンバーの中から選ぶべき。

会議の中で何を求めていくのか、明確にしておく必要がある。

会議の時間は議論のテーマの数によっては1日でもやるべき。

年4回、全て丸1日というのは調整が難しい。原則、午後2時から3時間程度ということでもいいと思う。座長は回り持ちで、出席は原則本人として代理は副市町長までは認めてはどうか。

時間は2時間では少ないが、弾力的に対応すればいいのでは。テーマは申合せの3条の趣旨にそって、市長会、町村会で調整すればいいのでは。

時間は午後2時から5時までの3時間。場合によっては延長することを条件とする。テーマは県、市町から出されたものを県、市長会、町村会で予め絞るということでしょうか。

テーマについては提案者の意向を尊重する趣旨からは提案者に絞ってもらう必要がある。事務局で選択すべきものではない。

多数出てきた場合は、市町長にアンケートをとって決めればいいのでは。

テーマについては、多数の場合、各市町長に3つ選択するようアンケートをとって、その結果で、1回の会議について3題くらいに絞るということでしょうか。

テーマを絞れるのなら、時間も3時間程度でよい。

[知事発言概要]

自治創造会議は、県、市、町が対等の立場で議論する場である。県が主導的な立場に立つものではない。単に庶務的なことを代表して自治振興課が担っているに過ぎない。事務局は、市長会、町村会と県（自治振興課）の3者で運営していくということを確認しておきたい。

「国民健康保険の県を単位とした広域化について」

[市町発言概要]

財源が一番の課題。危機的な状況のなかで、県として財源問題をどう認識し検討はいつ仕上げようとしているのか。県の危機認識はあるのか。

本気でやるのなら、滋賀県独自のモデルをつくるくらいの気構えがないといけない。そのスタートラインを共通認識しておかないとズルズルとした議論で終わってしまう。

[知事発言概要]

県、市町と学識経験者による医療保険制度関係検討チームで、広域化等支援方針を12月中の策定に向けて検討しているところ。京都の事例を参考にしながら、メリットとともに市町ごとの医療費を低下させる努力が見えにくくなるというデメリットも併せてデータに即して検証する必要があるため、チームで検討しているところ。そのなかで、市町の意見を聞いて、県としても対応を検討していきたい。財源については国に責任を持ってもらうべき。日程については、12月に出されるチームの意見を踏まえて次の段階に進めたい。

「県立高校の再編について」

[市町発言概要]

この問題は単に教育課題ではなく政治課題そのものとする。県教委から市町教委へ説明するだけで済む問題ではない。政治課題としてこういう場で議論したい。拙速な結論は出すべきではない。

そもそも県としてなぜ再編を考えざるを得ないのかということ、市町も一緒になって考えたい。残してほしいという要望だけでなく、例えば建替の費用負担はどれくらい必要なのか、様々なことを含めて本音での議論をしたい。

不安感が先行している。あるべき姿、ビジョンを県として示すべき。それを聞いたうえで、議論したい。嘉田県政の最大の政治課題、ダム問題並みの熱意を持ってビジョンを示してほしい。

県教委の説明は教育力の向上ばかりで地域の問題として捉えられていない。

[知事発言概要]

生徒が減っているなかで、どうすれば生徒のため地域のため魅力ある高校運営ができるのか、県政の重要課題である。政治課題でもあるので、それぞれの地域と高校のあり方について、前向きな議論ができるよう、次の会議の課題にさせていただきよう願います。

「行財政改革方針原案および事業見直し(案)について」

[市町発言概要]

県と市町の役割分担をしたうえで、改革に取り組むべき。その意味で単なる補助率の削減は市町への押しつけとしか見えない。丁寧に県と市町の担当で擦り合わせをしてほしい。また滋賀県版一括交付金においては、交付金化して補助金の総額を減らすことなく、市町へのしわ寄せとならないよう対応してほしい。

国の一括交付金については、知事会でも総額を確保するよう主張してもらいたい。

事業見直しについては、計画段階から市町の意見を取り入れて進めていくことが大事。県は市町を包括する広域自治体であるという認識に立って行革を考えてほしい。県営事業の市町負担金の廃止についても進めてほしい。

行革においては具体的な施策をその都度示してほしい。権限移譲については小さな町では体制的に厳しいものがあるので、配慮いただきたい。

河川改修に関連して、浚渫や雑木の処理は、市町からの負担を求めてでもやる方法を検討してもらってはどうか。

竜王町の善光寺川では、川辺の雑木などの処理を住民の手で行っている。県の仕事でも目につくことは町で自分たちの手でやっていくことが新しい公共につながっていくと考える。

[知事発言概要]

今後4年間の収支見通しで多額の財源不足が見込まれる中で、行革方針原案と事業見直し案を策定したところであるが、市町にはできるだけ負担転嫁とならないよう、自治振興交付金や乳幼児福祉医療など守るべきものは守るということで提案させていただいた。

国の一括交付金については、今でさえ縮減されている公共などは、仮にひもがはずれても総額が減っては元も子もない。そのことは知事会でも、またそれぞれ知事の記者会見でも主張している。

負担金については、昨年整理したことを徹底するとともに、事業見直しのなかで、今回、下水道維持管理基金について市町の負担が減らせるような形で見直すことを提案している。

「県基本構想について」

[市町発言概要]

バイオの分野についてもしっかり盛り込んでいただきたい。

基本構想のたたき台の時点で、この会議を開き議論したかった。市町の事情を汲み取ってつくるべき。

看取りなどは市が独自にすべきもので県に関わってほしくないと言われている市長もおられるので、県と市町との関係、役割を明確にしておいてほしい。

基本構想については、県は法定化されている訳ではないので、急がずじっくり議論してもいいのではないか。

[知事発言概要]

マニフェストの項目を活かしながら、未来成長戦略を埋め込んだ形での構想をつくっていききたい。特に生活の質や社会の質を高める「社会成長」とも呼ぶべき過程を重視している。

特に、子育て・子育て応援について、県としては人材育成や施設整備への助成をしていきたい。また医療福祉・在宅看取りのところも介護だけでなく看護を含め24時間体制を整えるために、市町と連携した取り組みを進めていきたい。そのほかほとんどの事業で市町との連携が必要であり、市町によって施策の軽重があると思うので、今後すり合わせをしていきたい。

「流域自治会議について」

[市町発言概要]

趣旨で「省庁・法律の枠を超え、総合的に決定する」というのは、どのような考えなのか。

「法律の枠を超え」というような趣旨があっているのか。

心意気は評価するが、「総合的に決定する」ということが成立するのか、また広域連合との関係はどうなのか、慎重にならないといけない。

府県別会議と全体会議の位置付けはしっかりとしていただきたい。府県別会議が単なる議論の場で全体会議に上がるようなことにならないよう制度設計をしっかりしていただきたい。

[知事発言概要]

知事：現行の法律が分野ごとに分断されていることを踏まえ、まずは総体としての議論の場を提案させていただくという趣旨である。どういう制度が可能かという点も含めて意見をいただきたい。今後の流れとして、「市町担当部課長会議」で準備会議を動かし、様々な課題について情報共有していきたい。